



# Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)1月10日  
 会長：増田 盛英  
 幹事：高木 勝  
 クラブ委員長：岩崎 道夫

例会日：毎週木曜日PM12:30～  
 会場：ヒルトン名古屋  
 事務局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3  
 ヒルトン名古屋910号

TEL：052-211-3803  
 FAX：052-211-2623  
 MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp  
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

2009～2010年度  
 国際ロータリーのテーマ  
 ロータリーの未来はあなたの手の中に  
 2009～2010年度  
 RI会長 ジョン・ケニー

## 第1443回例会

～ロータリー理解推進月間～  
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2010年1月14日(木) 晴 第26回

司会：梅田朋嗣会場委員  
 斉唱：「我等の生業」  
 ゲスト：浄土真宗本願寺派(西本願寺)教師  
 愛知淑徳大学講師  
 名古屋大谷・豊田大谷高校講師  
 藤井 信さん

### 会長挨拶

増田盛英会長

皆さんこんにちは

良いことがありました。吉木洋二さんに4,090gの男の子が誕生しました。初孫です。皆さん拍手でお祝いください。拍手

さて、ポリオワクチン投与のため、1月8日から12日まで高須さん、高木幹事、高須さんのお嬢さん、そして私の家内と娘の6名でインドへ行って参りました。先週お話しした通り、2760地区、2830地区他のロータリアンを含め総勢36名で行きました。

1月9日には、セレモニーが開催されました。セレモニーでは、Chief Mister of Delhi(デリー市行政長官)のMrs. Sheila Dikshit シェイラ・デキシット(70代後半のご婦人)から演説がありました。デキシットさんは、位の高い高官で、日本で言えば東京都知事よりもずっと上の立場の方のようです。彼女が演説したり、移動したり、関場パストガバナリーと会話をしたりするたびカメラマンが付いて回る状態でした。そして演説は、「インドにおけるポリオ撲滅は最終段階にある。本日のポリオワクチン活動がその最後の一押しである。この2滴のワクチンが子どもたちの未来を保証する。ロータリークラブの全面的援助で今回もワクチン投与が実施されることに感謝する。」と言う内容でした。

1月10日のワクチン投与は、36名が3グループに分かれ、旧デリー市内で実施されました。もちろん私達だけでなく、インドの皆さんの協力のもと、数箇所のワクチン投与の場所を回りましたが、子供たちの人数は意外と少なく、100名ほどで拍子抜けしました。しかし後から聞いたところによると、この行事が1週間くらい続き数千人以上の子供たちに投与されるようです。お母さんに抱かれて不安そうな表情でワクチン投与をされている子供たちの様子は何とも言えない気持ちになりました。でも、私たち全員、「インドを訪ねて良かったな」と言う気持ちで一杯です。

高須親子は、10日の夜帰国し、残った私たち4人は11日にタージマハルへ観光に行きましたが、その途中で「ワクチン投与をします」と言う看板が数箇所出していましたので、そこへ子供たちが集まってくるのが解りました。

RI.2760地区R財団では、来年も企画する意向を持っております。会員の皆さんもぜひ参加されることをお勧めします。

又、地区のポリオプラス委員の佐々木さんが、ビデオを撮ってくれて



おりますので、ぜひ皆さんにご覧頂きたいと思っております。

最後に高木幹事のことで新たに認識したことがありました。私は、英語が話せません。娘も片言でしか話せません。ところが高木幹事は、べらべらに話すことが出来るようになりました。タイ語はもっとお得意だそうです。これからもクラブとしてどんどん利用したいものです。

挨拶を終わります。ありがとうございました。

### 出席報告

梅村昌孝出席副委員長

会員70名 出席51名 (出席計算人数53名)

出席率 82.3%

1月 7日は補填により 93.4%

### 幹事報告

高木 勝幹事

- ・本日13時35分よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第7回理事会を開催致します。
- ・次週1月21日(木)11時よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第5回30周年記念実行委員会を開催致します。
- ・次週1月21日(木)はクラブフォーラム(中間決算と組織)です。
- ・次週1月21日(木)13時35分よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第2回クラブ奉仕協議会を開催致します。
- 1月18日(月)11時30分より、名古屋観光ホテル「那古の間」において鈴木淑久さんの祖母鈴木せき子さんのお別れ会が開催されます。
- ・1月20日(水)より1月24日(日)まで台北延平RC会員の子弟様がホームステイに来日されます。
- ・福岡西RC廣畑富雄さんの「ロータリーの心と原点」をメールBOXに配布致しました。
- ・会員遠山堯郎さんの奥様がお亡くなりになりました。昨日お通夜、本日告別式がご本人の希望により家族葬にて執り行われました。尚、当クラブより会長・幹事ほか数名の方でご焼香してまいりました。
- ・本日の食後の紅茶は会長・高須さん・幹事がインド訪問の際買ってきたものです。有名なダーズリンティーであります。

### ダーズリン紅茶について

高須洋志さん

ダーズリン紅茶についてご説明させていただきます。ダーズリンというのはインドの北東部、ヒマラヤの山麓にある都市で、紅茶の生産に非常に適した気候の地域であるそうです。茶葉は、何枚か出てくる中のでっぺんにある浅黄色をした若い芽だけを取って出したものが一番香りがよくおいしいと言われてます。その茶葉で入れた紅茶を本日皆さんに召し上がっていただきます。ぜひお楽しみください。



遅ればせながら新年おめでとうございます。本年は米寿を迎えました。

江口 金満さん

- ・久しぶりの例会出席です。よろしくお願ひします。 入江 理さん
- ・本日卓話を担当します。講師を藤井先生にお願ひしました。

大島 浩嗣さん

- ・1月8日～12日まで、ポリオワクチン投与に行つてまいりました。高須さん、高木幹人には大変お世話になりありがとうございました。

増田 盛英さん

- ・インドでのポリオワクチン投与活動を無事に終えました。

高木 勝さん

- ・大雪で岐阜のゴルフ場が10日間もクローズです。どなたか雪をとく方法を教えて下さい。

内田 久利さん

- ・24日は68回目の誕生日となります。いつの間にか馬齢を重ねてしまいました。1月10日には外孫子ですが初孫ができました。4kg余りの男の子でした。4kgを越えると巨大児と言うそうです。 吉木 洋二さん

吉木 洋二さん

- ・1月20日は私の誕生日。又、1才からの再出発です。 市岡 正蔵さん
- ・本人1月26日、妻邦子1月30日、2名分です。 本多 清治さん

市岡 正蔵さん

- ・1月11日は家内の誕生日でした。きれいなお花をありがとうございました。また、1月27日は私の誕生日です。満73才になります。悲しいです。

野崎 洋二さん

- ・妻の誕生日には素敵なお花有難うございました。 松岡 道弘さん
- ・1月は家内の誕生日です。 渡辺喜代彦さん

松岡 道弘さん

- ・新年あけましておめでとうございます。また1月8日、女房の誕生日にきれいな花をありがとうございました。 長坂 邦雄さん

長坂 邦雄さん

## R財団国際親善奨学生 橘田直樹さんからのメール

みなさん、あけましておめでとうございます。イギリスのノッティンガムでは、クリスマスが終わり、普段の生活が始まるようになっています。12月24日と25日のクリスマスのあいだ、ロータリーのカウンセラーであるパウリンさんの自宅に泊めていただきました。イギリスでは、11月の終わりごろからクリスマスまでの4週間をアドヴェントといいます。キリストの誕生を待ち望む日々であり、様々な催し物が開かれたり、クリスマスの飾りつけが行われたりします。ノッティンガムでは町の中心にスケートリンクやクリスマス・マーケットが現れ、多くの教会でキャロル・サービスが行われます。

24日のクリスマス・イブには、カウンセラーのパウリンさんと一緒にダービーを訪ねました。ダービーはノッティンガムから車で30分ほどのところにある都市です。ダービー大聖堂のクリスマス・キャロルにロータリアンの方と行き、一緒に歌を歌いました。そのあと、ダービーに住んでいるロータリアンの方の自宅で夕食をいただきました。イギリスの伝統的な食事は大体味が濃いものが多いのですが、割と薄味の素朴な味で、お肉も柔らかくて美味しかったです。

翌日の25日のクリスマスには、僕の中国人の友人も招いて、一緒にクリスマスを祝いました。午後3時からは、女王陛下がテレビで15分ほどスピーチをします。今年は、景気回復やアフガニスタンのことが触れられていたように思います。

クリスマスの翌日のボクシング・デイは、まだ休日で、町がひっそりしています。翌日から、多くのお店でセールが始まり、たくさんの人で、町があふれるようになります。正式には、公現節の1月6日までクリスマスの期間は続きます。1月7日になり、クリスマスも終わり、これから学校の授業が始まります。

## 気付きの仕掛け(赤十字と教育)



去年は伊勢湾台風から50年でした。当時私は赤十字の愛知県支部でボランティアに参加しました。そこには全国からたくさんの救援物資が届いており、そのほとんどが男物も女物もサイズもごちゃまぜの衣類でした。ボランティア員はひたすら仕分け作業に追われていました。一方、父親がボーイスカウトの愛知県副連盟長をしていた関係で、事務局になっていた私の寺にも世界から色々な物資が届けられたのですが、それはダンボールに男物女物の区別やサイズがきちんと書かれ、全て洗濯のされた非常に清潔なものでした。日本からの物資も善意の物ではあったものの、押入れの隅を片付けたような物が山ほどありました。その時実際に必要だったものは、ぬれた物を干すロープ・洗濯ばさみ・タオルなどであり、衣類は置き場に困るだけというのが被災者の生の声でした。その時、ボランティアとは押しつけではなく相手の要求、つまり穴のあいた所に土を持って行って埋めるようなことだと感じました。穴のあいていない所に土を持っていくのは、単なるでしゃばりなのです。

去年の暮れにインドへ行き、人々のエネルギーを感じました。相撲をみても、海外から来た力士はハングリー精神旺盛でそれがエネルギーとなっています。我々も子どものころ苦労した世代です。そのため親になった時、子どもには苦労かけないように世話をしすぎました。大人がお膳立てをしすぎたせいで、自分で目的を持って方向を決めることができない子どもが育ってしまったことにとっても淋しい思いがします。

私は中学校に38年間勤務し、生徒指導にずっと関わってきました。少子化によって、喧嘩の経験がなく相手の痛みがわからない子どもが増えました。そのためいじめもたくさんあり、自殺未遂を起こした生徒もいました。また、仲間意識を高めるための煙草やシンナーが恐喝や万引きにつながっていました。最近は大人のモラルも低く、それが結果的に子どもの規範意識を失わせています。

そういう子どもたちへのアプローチとして赤十字の精神をご紹介します。赤十字は「人間の苦痛と死に対して戦う」というキャッチフレーズ1つで活動しています。その精神は青少年赤十字の合言葉である「気付き・考え・実行する」ということにつながります。

各学校のリーダーを集めて二泊三日でリーダーシップの教育をするトレーニングセンターでは「日程表を見る」、その他の色々な指示は「掲示板を見る」、そして「時計を見る」の「3つの見る」が原則です。直接に命令や指示をされることはなく、自分で気付いて行動しなければ食事もとれないシステムです。三日経つと子どもたちは生き生きとして帰って行きます。要はいかにうまく気付く機会を仕掛けて次の実行力につなげていくかということです。

そういうものは最終的に「私はいつか死ぬ」ということへの自覚となります。自覚することが死ぬまでの生きる力につながるのです。私も年を取るにつれてしみじみとそれを実感するようになりました。自分に都合の良いことを祈るのではなく、自分が死ぬことを自覚して今日1日を精一杯どのように生きるかが大切です。たった一つの自分の命をいかに大事にするかということが、同じように生きている他の人の命も大事にするということにつながっていくのだと思います。

## 例会のご案内

### ■本日の行事 1月21日(木)

第5回クラブフォーラム(中間決算と組織)

### ■次週の卓話 1月28日(木)

卓話講師：地区青少年交換委員長 森 榮さん  
テーマ：「高校生に夢を」  
～青少年交換プログラムについて～

### ■次々週行事 2月2日(火) 4RC合同例会

場所：名古屋マリオットアソシアホテル  
時間：18:00～20:00  
※2月4日(木)は振替のため休会